

## 救馬溪観音

救馬溪観音は小さい山の上にある寺院です。修験道の開祖である役行者（634~706 年）が開きました。修験道は山岳信仰に基づく民間信仰で苦行を伴う修行行なっていました。役行者とその他の行者は村での生活を捨てて、この洞窟に住み修験道の修行をしました。役行者は 30 年以上もこの洞窟に住んでいたとされています。

この寺院は山の岩に囲まれた場所に建てられていて、岩に一体となって建てられています。修験道をルーツに持つものの、救馬溪観音は現在仏教寺院です。境内にはいくつもの神社もあります。これらは江戸時代（1603~1868）から残っているもので、明治時代（1868~1912）に行われた全国規模の改革で、仏教と神道が正式に分離する前のことです。

仏教の神様である馬頭観音がここには祀られています。馬頭観音菩薩は動物の守護者であると考えられていて、災難を払うということでも崇拜されています。

寺院の境内にある小さな神社は、山の岩層の横にあり、蜂の巣のような岩の風化は珍しい形として讃えられています。岩には自然にできた上下逆さまになったハートがあり、神道では「猪目」として知られ、幸運を呼ぶとされています。

寺院と神社を囲う庭にはアジサイや桜の木、カエデが植えられています。